
色彩

佳奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

色彩

【Nコード】

N7807B

【作者名】

佳奈

【あらすじ】

言葉を彩りたい。それは私の願いです。瞳を覆った暗闇の中、言葉によって想像すれば人は美しい色彩と出会うと思います。そういうものを描けたらいいな、と思います。

（前書き）

基本的に一人の思いがただつづられた、ストーリー性のない物語だと思っています。「」がなかったり…。そう言う点を理解して読んでいただけると嬉しいです。

熱帯夜の魚 赤

淡い空気の滲む故郷を捨てて、私はこの二セモノの光ときつい香水の香りが漂う空気の中にいる。

真夜中でも賑わう繁華街。汗ばむほどの真夏の夜。私は真つ赤なドレスに身を包み、腰をふる。それだけが世界だとも言わんばかりに声を上げて笑う。ちっとも酔うことの出来ない酒を飲み、輝きの中に身を伏せる。

それでも、鏡の中に映る私は美しい。

それを私は知っている。

だからこんなにも輝いていられる。

赤いルージユが夜の闇に溶ける頃、私はその瞳を見つけた。私は彼に微笑みかけた。彼も優しく私を見つめる。

褐色を帯びた瞳。

私はそう呟いた。目の前の男にささやかれた甘い言葉を信じて、私は今夜も闇の中を泳ぐ。

赤い尾びれを激しく揺らす魚のように。

月夜のハリガネムシ 銀色

蟪蛄の中にいるハリガネムシ。誰かの中に隠れてぶよぶよと勝手に成長して、そいつが消えたらそいつを蝕む卑怯者。ああ、何て美しいんだろう。

僕はきつとそう言う存在なんだ。

教室の片隅で息を飲み、弱者を探す。それはまるで世界の片隅で息を飲む正義みたいだ。

月の明るい夜、校舎の中。僕は少しずつ覚醒する。正義の中に悪を隠して。

バスタブの人魚 青

体が朽ちていくのを感じた。

私はもはや女ではないのかも知れない。

年をとって男に抱かれることはなくなっていた。

私は、美しかったはずなのに。

今、夫もなく、恋人もなくただ一人、青い入浴剤の入れられたバスタブのお湯の中で孤独を感じる。

せめて時折見る夢を許して欲しい。

私は青い海の中、静かにそこに沈んでいき、優雅に泳ぐ人魚になりたい。

海に抱かれて朽ちていきたい。

永遠の闇 紺

売れない絵描きなんて、世の中に腐るほどいる。

だから、このどうしようもない苦しみを感じているのはこの夜空の下、僕だけではないはずだ。

いつからか過去の自分を越えられなくなった。

引き出しの奥に閉まってある僕の最高傑作は、夜空の絵だ。

星と星の間にある手のとどがない闇を僕は描いた。

あの絵を僕は越えられない。

今でも目を閉じれば、僕は確かにあの紺色の世界を見つける。

星の光も届かない永遠の孤独を僕は決して忘れられない。

ちっばけな闇 黒

嫌い。あんなもの大嫌い。黒くて不潔。アレはゴミ箱をあさるの。

毎朝小学校へ行く途中にアレを見るの。

私はあのとがったくちばしと、しわくちな足と、それからあの卑怯そうな目が嫌いな。…そうだったの。

だけど、だけど今日の学校帰りにね。私見てしまったの。道路の隅っこでぐちゃぐちゃになって死んでしまったアレの死骸。

友達の子が言った。「汚いね」って。だけど、車に引かれたアレが
かわいそうだった。

ちいさな闇みたいで。世界中の片隅の悲しそうな闇みたいで。私は
友達と別れて、曲がり角を曲がった後、どうしてか分からなかった
けど泣いた。からすのためにわんわん泣いた。

幸福の灯火 黄

年の離れた小さな弟に満足に食事を食わしてやりたくて、思わず俺
は盗みを働いた。逃げようとした時、よれよれのばあさんに見つか
って、俺はいつの間にかそいつを殺していた。

恐怖と後悔で張り裂けそうになった心。鳴り止まない鼓動。

あの夕暮れの帰り道を俺は二度と忘れられないだろう。夕暮れ？嫌、
あれはもう日が沈んだ後だった。

ちようど住宅街の家々の電気がともされる頃だったはずだ。

俺は、あの時その場に立ち尽くし、その光に見とれた。

暖かな色をした黄色の灯火。その光を浴びる幸福な家族。

俺はそれが心のそこからうらやましくて、その場で涙を流した。

そうして俺は今暗い刑務所にいる。

あの光をいつか浴びられる日を信じながら。

（後書き）

もし良かったら感想、評価書いていただけると励みになります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7807b/>

色彩

2010年10月11日02時11分発行